(八)

國家總動員法其ノ他

2902

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(八) 國家總動員法其ノ他目次

■國家總動員法……（成規類纂一五類）　頁
●國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件……一
●國民徴用令……一
□國民徴用令施行規則（現行法規全書一九類上四一〇頁ノ二八ノ一七）
●關稅法……四
●關稅法施行規則……一〇
□關稅定率法（現行法規全書一八類六二〇頁ノ八）
●臨時農村負債處理法……一五
●戰時災害保護法……一七

(八) 國家總動員法其ノ他目次 終

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

●國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件

（昭和十四年九月二十九日勅令第六百七十二號）

朕國家總動員法等ノ施行ノ統轄ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條 各省大臣又ハ朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官若ハ南洋廳長官國家總動員法（關東州國家總動員令及昭和十三年勅令第三百十七號ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ施行ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ之ヲ廢止變更セントスルトキハ內閣總理大臣ニ協議スベシ

第二條 內閣總理大臣ハ關係各廳ニ對シ國家總動員法ノ施行ニ關スル事項ニ付統轄上必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）昭和十三年（五月四日公布）勅令第三百十七號ハ南洋群島ニ於ケル國家總動員ニ關スル件ナリ

●國民徴用令

（昭和十四年七月七日勅令第四百五十一號）

改正 昭和一五、一〇同六七四、一六、一二同一一二九

朕國民徴用令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條 國家總動員法（昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ）第四條ノ規定ニ基ク常國臣民ノ徴用及國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク被徴用者ノ使用又ハ賃金給料其ノ他ノ從業條件ニ關スル命令ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 徴用ハ特別ノ事由アル場合ノ外職業指導所ノ職業紹介其ノ他募集ノ方法ニ依リ所要ノ人員ヲ得ラレザル場合ニ限リ之ヲ行フモノトス

第三條 徴用ハ國民職業能力申告令ニ依ル要申告者（以下要申告者ト稱ス）ニ限リ之ヲ行フ但シ徴用申要申告者タラザルニ至リタル者ヲ引續キ徴用スル必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

特別ノ必要アル場合ニ於テハ前項規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ要申告者以外ノ者ヲ徴用スルコトヲ得

第四條 本令ニ依リ徴用スル者ハ國ノ行フ總動員業務又ハ工場事業管理令ニ依リ政府ノ管理スル工場事業場其ノ他ノ施設（以下管理工場ト稱ス）ニ於テ行フ總動員業務ニ從事セシムルモノトス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ厚生大臣ノ指定スル工場事業場其ノ他ノ施設（以下指定工場ト稱ス）ニ於テ行フ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得

第五條 徴用及徴用ノ解除ハ厚生大臣ノ命令ニ依リ之ヲ實施ス

第六條 總動員業務ヲ行フ官衙（陸海軍ノ部隊及學校ヲ含ム以下同ジ）ノ所管大臣又ハ管理工場若クハ指定工場ノ事業主徴用ニ依リ人員ノ配置ヲ必要トスルトキハ厚生大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スベシ

前項ノ規定ニ依リ管理工場ノ事業主ノ爲ス申請ハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣ヲ經由スベシ

徴用セラルベキ者其ノ居住ノ場所（國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ニ從事スル場合ニ於テハ就業ノ場所）ニ異動ヲ生ジ國民職業能力申告令第四條第一項後段又ハ第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ爲サザル場合ニ於テ前後ノ居住地（國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ニ付テハ就業地）ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスルトキ厚生大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラズ前ノ居住地（國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ニ付テハ就業地）ヲ管轄スル地方長官ヲ通ジ

第七條 厚生大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ徴用ノ必要アリト認ムルトキハ徴用命令ヲ發シ徴用セラルベキ者ノ居住地（國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ニ付テハ其ノ者ノ就業地）ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達スベシ

地方長官徴用命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

直ニ徴用令書ヲ發シ徴用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ

第八條 徴用令書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ但シ軍機保護上特ニ必要アルトキハ第二號又ハ第三號ニ掲グル事項ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 徴用セラルベキ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍、居住ノ場所（國民職業能力申告令第二條第一號ノ職業ニ從事スル者ニ付テハ就業ノ場所）

二 從事スベキ總動員業務ヲ行フ官衙又ハ管理工場若ハ指定工場ノ名稱及所在地

三 從事スベキ總動員業務、職業及場所

四 徴用ノ期間出頭ス

五 日時及場所

六 其ノ他必要ト認ムル事項

第九條 地方長官ハ徴用セラルベキ者ノ居住及就業ノ場所、職業、技能程度、身體ノ狀態、家庭ノ狀況、希望等ヲ斟酌シ徴用ノ適否並ニ從事スベキ總動員業務、職業及場所ヲ決定シ徴用令書ヲ發スベシ

第十條 地方長官ハ徴用ノ適否其ノ他ヲ判定スル爲必要アルトキハ徴用セラルベキ者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第十一條 徴用令書ノ交付ヲ受ケタル者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭スルコト能ハザル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

前項ノ規定ニ依ル屆出アリタル場合ニ於テ地方長官必要アリト認ムルトキハ出頭ノ日時若ハ場所ヲ變更シ其ノ者徴用ニ適セズト認ムルトキハ徴用ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出頭變更令書又ハ徴用取消令書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スベシ

第十二條 被徴用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主被徴用者ヲ使用スル官衙、管理工場、若ハ指定工場、被徴用者ノ從事スル總動員業務、職業若ハ場所又ハ徴用ノ期間ニ付變更ヲ必要トスルトキハ厚生大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スベシ

第十三條 厚生大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ被徴用者ヲ使用スル官衙、管理工場若ハ指定工場、被徴用者ノ從事スル總動員業務、職業若ハ場所又ハ徴用ノ期間ヲ變更スルコトヲ得

第十四條 被徴用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主被徴用者ガ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ從事スルニ適セズト認ムルトキ又ハ其ノ者ヲシテ總動員業務ニ從事セシムル必要ナキニ至リタルトキハ厚生大臣ニ徴用ノ解除ヲ請求又ハ申請スベシ被徴用者疾病者其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ從事シ難キ場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ所管大臣ニ管理工場若ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ在リテハ厚生大臣

第十五條 厚生大臣前條第一項ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テハ徴用ヲ解除スルコトヲ得

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前條第一項ノ規定ニ依ル請求ナキ場合ト雖モ徴用ヲ解除スルコト得

厚生大臣前項ノ規定ニ依リ官衙ニ使セラルル者ノ徴用ヲ解除セントスルトキハ當該官衙ノ所管大臣ニ協議スベシ

第十六條 厚生大臣徴用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ徴用變更命令又ハ徴用解除ヲ發シ命令ノ定ムル所ニ依リ被徴用者ノ就業地ヲ管轄スル地方長官、徴用令書ヲ發シタル地方長官又ハ第八條第五號ノ出頭ノ場所ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達スベシ

地方長官徴用變更命令又ハ徴用解除命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付スベシ

被徴用者本令施行地外ノ場所ニ於テ就業スル場合ニ於テ徴用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ厚生大臣徴用變更令書又ハ徴用解除令書ヲ發シ被徴用者ニ之ヲ交付スベシ

第十七條 被徴用者總動員業務ニ從事スル場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ長ノ指揮ヲ受ケ管理工場若ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

管理工場ノ事業主ノ指示ニ從フベシ

第十八條 被徴用者ニ對スル給與ハ其ノ技能程度、從事スル從業及場所等ニ應ジ且從前ノ給與其ノ他之ニ準ズベキ收入ヲ斟酌シテ被徴用者ヲ使用スル官衙ノ長又ハ事業主之ヲ支給スルモノトス

被徴用者ニ對スル給與ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣厚生大臣ニ協議シテ之ヲ定メ管理工場若ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ關シテハ當該管理工場ノ事業主厚生大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ムベシ

第十九條 徴用セラルベキ者第十條ノ規定ニ依リ出頭シタル場合ノ旅費ハ地方長官之ヲ支給ス

管理工場ニ配置セラルル爲第十條ノ規定ニ依リ出頭シタル者ニ對シ前項ノ規定ニ依リ支給シタル旅費ノ額ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主國庫ニ之ヲ納入スベシ

被徴用者徴用令書ノ交付ヲ受ケ指定ノ場所ニ出頭スル場合又ハ徴用ヲ解除セラレ歸鄉スル場合ノ旅費ハ被徴用者ヲ使用スル官衙ノ長又ハ事業主之ヲ支給スルモノトス

第一項及前項ノ場合ニ於テ前金拂ヲ爲スニ非ザレバ出頭スルコト能ハザル者ノ旅費ハ其ノ者ノ居住地ノ市町村又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ一時繰替支辨スベシ

徴用セラルベキ者第十條ノ規定ニ依リ出頭スル場合ノ旅費及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

被徴用者徴用令書ノ交付ヲ受ケ指定ノ場所ニ出頭スル場合ノ旅費及其ノ一時繰替支辨並ニ徴用ヲ解除セラレ歸鄉スル場合ノ旅費ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣厚生大臣ニ協議シテ之ヲ定メ管理工場ニ使用セラルル者ニ關シテハ厚生大臣之ヲ定ム

第十九條ノ二 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第六條ノ規定ニ基キ被徴用者ヲ使用スル管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ對シ被徴用者ノ使用又ハ賃金給料其ノ他ノ從業條件ニ關シ命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條ノ三 被徴用者徴用セラレタルニ因リ其ノ家族ト世帶ヲ異ニスルニ至リタル場合其ノ他特別ノ事情アル場合又ハ被徴用者故意若ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ爲徴用ヲ解除セラレタル場合ニ於テ本人又ハ家族ガ生活スルコト困難ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得

被徴用者徴用セラレ總動員業務ニ從業中故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シタル場合ニ於テ遺族ガ生活スルコト困難ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ家族又ハ遺族ノ範圍及扶助ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條ノ四 前條ノ規定ニ依ル扶助ガ被徴用者ニシテ管理工場若ハ指定工場ニ使用セラレ若ハ使用セラレタル者又ハ其ノ家族若ハ遺族ニ對シ爲サレタルモノナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該費用ヲ國庫ニ納入セシムルコトヲ得

第二十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依ル徴用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徴スルコトヲ得

厚生大臣又ハ地方長官徴用ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ徴用セズ

一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（未ダ入營セザル者ヲ除ク）及召集中ノモノ（召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含ム）

二 陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）

三 陸海軍軍屬（被徴用者ニシテ之ニ該當スルニ至リタルモノヲ除ク）

四 醫療關係者職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スベキ者

五 獣醫師職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

スベキ者

六　船員法ノ船員、朝鮮船員令ノ船員及關東州船員令ノ船員

七　法令ニ依リ拘禁中ノ者

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特別ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ徵用セズ

一　餘人ヲ以テ代フベカラザル職ニ在ル官吏

二　帝國議會、道府縣會、市町村會其ノ他之ニ準ズベキモノノ議員

三　總動員業務ニ從事スル者ニシテ餘人ヲ以テ代フベカラザルモノ

第二十三條　厚生大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ職業指導所長ヲシテ徵用ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシメ又ハ市町村長（東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長）若ハ之ニ準ズベキモノヲシテ徵用ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

市町村長（東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長）又ハ之ニ準ズベキモノノ前項ノ規定ニ依リ徵用ニ關スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市町村又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ一時繰替支辨スベシ

前項ノ費用及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第二十四條　厚生大臣ハ本令ノ施行ニ關スル重要事項ニ付內閣總理大臣ニ協議スベシ

第二十五條　本令中厚生大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太總長官又ハ南洋廳長官トシ總動員業務ヲ行フ官衙ノ所管大臣、被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣若ハ當該官衙ノ所管大臣又ハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣トアルハ官衙ノ所管大臣又ハ主務大臣ガ陸軍大臣又ハ海軍大臣タル場合ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官トス

本令中地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ職業指導所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）樺太ニ在リテハ樺太支廳長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トス

第二十六條　本令ニ規定スルモノノ外徵用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●關稅法

（明治三十二年三月法律第六一號）
（同年八月四日ヨリ施行）

（昭和十年四月同第三七號）
（改正）（同年四月六日ヨリ施行）
（昭和十六年二月同七號）

第一章　關稅ノ賦課及徵收

第一條　輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

第二條　輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入通許前ニ限リ相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條　關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス但シ保稅倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫出ノ日、藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日、第八十三條第三項ノ規定ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス

第四條　關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條　關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス

關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス

第六條　擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スベキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條　關稅ノ徵收權ハ之ヲ行使シ得ル日ヨリ滿三箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

消滅ス但シ逃脫ヲ圖リ又ハ逃脫シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 關稅ノ過誤納ニ因テ生スル還求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因テ消滅ス

第九條 前二條ノ期限內ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時效ヲ中斷ス

第二章 船舶

第十條 外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十三時以內ニ稅關ニ入港屆ヲ爲シ積荷目錄、船口申告書、船用品目錄及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ頒クヘシ

第十一條 (削除)

第十二條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目錄又ハ運送目錄ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港屆出ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘシ

第十四條 外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以內ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條 (削除)

第十六條 船長ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外既ニ提出シタル積荷目錄ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受タルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏ニ屆出ツヘシ

第十九條 削除

第二十條 削除

第二十一條 外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條 稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章 貨物

第一節 總則

第二十四條 外國貨物ハ保稅地域ニ非サル場所ニ藏置スルコトヲ得ス但シ難破貨物稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 貨物ノ檢査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ又ハ保稅地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス

保稅地域內ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同シ

第二十七條 保稅地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條 貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

外國貿易船ト沿海通航船トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス

第二十九條ノ二 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ稅關構內、保稅倉庫、稅關假置場、稅關長カ外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第三十條 貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節 輸出、輸入及積戻

第三十一條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ左ニ揭クル場合ニ於

2908

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

テハ稅關官吏ニ稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許ヲ受クルコトヲ得

一　遭難船舶ノ修繕、救護又ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スル必要ナル費用ヲ支拂スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二　遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三　遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四　遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第三十二條　輸入申告書ニハ仕入書ヲ添附スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三十三條　削除

第三十四條　輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認可ヲ得稅金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　削除

第三十六條　削除

第三十七條　輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ積出スルコトヲ得ス

第三十八條　外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　運送

第三十九條　外國貨物ハ海路又ハ陸路ニ由リ開港間保稅地域間又ハ開港ト保稅地域トノ間ニ之ヲ運送スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ稅關ハ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三十九條ノ二　外國貨物ノ陸路ニ由ル運送ハ命令ヲ以テ定メタル通路ニ由ルヘシ

第三十九ノ三　外國貨物相當ノ期間內ニ運送先ニ到達セサルトキハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ減却シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條ノ四　外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスル毎ニ運送目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十九條ノ五　左ニ揭クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保稅地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ルヘシ

一　假ニ陸揚シタル貨物

二　運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物

三　難破貨物

前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以內ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四十條　內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ

第四十一條　第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目錄ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四節　郵便物

第四十二條　郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條　關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條　郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條　第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十四條、第三十七乃至第三十九條ノ五及第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節　收容

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四十六條 保稅倉庫又ハ稅關假置場ヲ除ク外保稅地域ニ搬入シタル貨物ヲ搬入ノ日ヨリ七日以內ニ其ノ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ稅關ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス

前項ノ貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前項ノ期間內ト雖之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條 貨物ヲ收容シタルトキハ三日以內ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條 貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三日以內ニ貨物ヲ保稅地域ヨリ搬則シ又ハ保稅倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セサルトキハ稅關ハ更ニ第四十六條ノ收容ヲ爲スコトヲ得

第五十條 貨物收容ノ日ヨリ六箇月以內ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號番號種類箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以內ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス

公益上必要アル場合ニ於テハ隨意契約ヲ以テ前項ノ公賣ニ代フルコトヲ得

第五十一條 收容貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ公賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條 收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章 稅關官吏ノ職權

第五十三條 稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條 稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條 稅關官吏ハ船車ニ乘込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ檢査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條 稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 前條ノ請求アリタルトキハ海軍當船長ハ其ノ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍當船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ヰルコトヲ得

第五章 異議餘願

第六十一條 關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 價從稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若ハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス

第六十四條 評價人ハ四人トシ二人ハ稅關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ揭クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二 第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受

2910

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ケ滿三年ヲ經過セサル者

三　六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者

四　當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ格ヲ價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價評價以テ課稅價格トス

第六十六條　異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條　異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條　第六十二條ノ稅關長ノ判定ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條　訴願ヲ審査セシムル爲委員會ヲ設ク

第七十條　委員會ハ委員過半數出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半數ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條　委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條　委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條　委員ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　罰則

第七十四條　輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七十五條　關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表輸入稅表第四百十二號第二項ニ揭クル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル金額トス

第七十五條ノ二　前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ斡保ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ前條但書ニ揭クル貴石ナルトキハ罰金ハ五千圓以下トシ其ノ原價カ五千圓ヲ超ユルトキハ原價ニ相當スル金額以下トス

第七十六條　免許ヲ受ケスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第七十四條又ハ第七十五條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七十七條　貨物ト符合セサル積荷目錄又ハ運送目錄ヲ提出シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十八條　第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七十九條　第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十條　第十條、第十三條、第十八條、第二項、第二十一條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條　第二十六條乃至第二十八條、第三十九條第一項、第三十九條ノ二又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十二條　第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十二條ノ二　輸出又ハ輸入ノ藥ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人ニシテ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ營業者ヲ處罰ス但シ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合又ハ稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

2911

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

稅關貨物取扱人ノ代理人雇人其ノ他從業者カ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第八十二條ノ三　前條ノ場合ニ於テ營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ營業又ハ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十二條ノ四　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項、但書第三十九條第二項第四十條第四十一條第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス

第八十三條　本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯則者以外ノ者ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヨリ關稅及消費稅ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ犯則者ヨリ追徵ス

第八十二條ノ二ノ營業者及稅關貨物取扱人ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ犯則者ト看做ス

前二項ノ追徵ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貨物ノ關稅ハ犯則當時ノ貨物ノ所有者ヨリ之ヲ徵收ス但シ貨物カ所有者ノ占有ニ歸セサル間ニ滅失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキハ犯則者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ規定ニ依ル關稅ノ徵收ニ付テハ國稅徵收法ヲ準用ス

第七章　犯則事件ノ調査及處分

第八十四條　稅關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　稅關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ着用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條　稅關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條　稅關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、雇人、隣佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ他ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在リテハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムコトヲ得

前項ノ親族、雇人若ハ隣佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條　稅關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目錄ヲ作ルヘシ差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條　臨檢搜索及物件差押ハ日沒ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

既ニ開始シタル臨檢搜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ繼續スルコトヲ得

第九十二條　稅關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作リ立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ其ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條　稅關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ沒收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十五條　犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以內ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間內ニ履行セサルトキハ稅關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第九十七條　稅關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章　補則

第九十八條　船舶修繕ノ爲又ハ開港ニ於テ積卸シ難キ巨大重量ノ貨物ヲ陸揚若ハ船積スル爲必要ト認ムルトキハ稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得開港トノ交通著シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚又ハ船積スル爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第九十九條　從來ノ開港ノ外開港ト爲スヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百條　本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ稅關ノ休日ヲ算入セス日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第百一條　本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第百一條ノ二　稅關官吏ハ關稅定率法第五條ノ二ニ規定スル不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十四條、第八十六條、第八十七條、第八十九條及第九十一條ノ規定ヲ準用ス

第百二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三條　明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、稅關法、稅關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號同年法律第三號同二十九年法律第十八號其ノ他本法ニ抵觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●關稅法施行規則

（明治三十二年六月勅令第三一九號）
（最近改正昭三、四第五六號）

第一章　關稅ノ賦課徵收及擔保

第一條　關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域內ヲ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明書ヲ以テスルヲ要ス

前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第二條ノ二　製產原地ノ證明ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ前二條ノ規定ニ從フ

第三條　關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付スヘキ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ヲ指定シタル文書ヲ以テ納稅人ニ告知スヘシ但シ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

第四條　納稅人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付スヘシ

第五條　旅客ノ携帶品關稅法第三十一條但書ニ揭ケタル貨物等ニ付貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス

前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ

第六條　關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ名宛人ニ通知スヘシ

第七條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第八條　郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第九條　關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ爵ハントスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、價格及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條　關稅ノ擔保トシテ提供スヘキモノハ金錢又ハ國債ニ限ル

第十一條　金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

領書ヲ稅關ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關ニ提出スヘシ

乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領書ヲ提出スヘシ

第十二條 削除

第十三條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ爲スヘシ

第十四條 前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名、名稱、國債ノ種別證券又ハ登錄ノ記號、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十五條 公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二章 船舶ニ關スル手續

第十七條 船舶ノ入港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登錄噸數、仕出港、入港ノ時及乘組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ

第十九條 給口申告書ニハ給口ノ所在、箇數、船用品目錄ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載スヘシ

前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ

第二十條 外國貨物ヲ積載セル船舶積荷目錄又ハ運送目錄提出前ニ於テ貨物積卸ノ認許ヲ得ントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條 船舶ノ出港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登錄噸數、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ遽ニ預リタル船舶國籍證書其ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條 外國貨物ヲ積載セル船舶日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十四條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ貨物ノ積卸ヲ爲ストキ又ハ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船內國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 警察官吏關稅法第十八條第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ其ノ他所轄ノ稅關又ハ監視署ニ急報スヘシ

第二十六條 削除

第二十七條 外國貨物ノ假揚ヲ爲サントスルトキハ其ノ記號、番號、品名、箇數、數量及揚場ノ事由ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ、稅關ノ設置ナキ地ニアリテハ稅關官吏ニ、稅關官吏アラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ揚場シタル後直ニ申告スヘシ

第二十八條 關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ二 警察官吏前二條ノ申告ヲ受ケタルトキハ其ノ他所轄ノ稅關ニ通報スヘシ

第二十九條 沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ他所轄ノ稅關ニ申告スヘシ前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類數量、原價及積入地ヲ記載シタル目錄ヲ歸港地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章 貨物ニ關スル手續

第一節 總則

第三十條 日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ若ハ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅地域內ニ於ケル貨物ノ取扱ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第三十一條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第三十二條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ檢査ヲ受ケントスル者アルトキハ稅關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ

但シ關稅法第三十一條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所期間貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第二節 貨物ノ輸出及積戻手續

第三十四條 輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格、仕向港及仕向地ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客携帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス

輸出貨物外國產ナルトキハ仍其ノ產地ヲ記載スヘシ

關稅定率法第七條第十七號ニ依リ關稅ノ免除ヲ得ントスル外國產貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的及再輸入ノ場所ヲ記載スヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出手續ヲナシタル稅關ニ申告スヘシ

第三十五條 關稅定率法第八條又ハ第十條ニ依ル關稅免除ノ貨物ヲ法定期間內ニ輸出セントスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ記入シ提出者ニ交付スヘシ

第三十六條 第三十四條第一項ノ規定ハ積戻申告ニ之ヲ準用ス

第三節 貨物輸入ノ手續

第三十七條 輸入申告書ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、積出地、產出地及又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載スヘシ

第三十七條ノ二 輸入申告書ニ添付スヘキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス

第三十八條 旅客携帶品ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 關稅定率法第七條第十七號、第十八號及第二十二號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免除ヲ得ントスルトキハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スヘシ但シ輸入貨物內國產ニシテ稅關官吏ニ於テ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スルヲ能ハサル理由アリト認ムルモノニ限リ他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十條 關稅定率法第八條第二號乃至第八號及第十條ニ揭ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ目的及輸出ノ場所ヲ記載スヘシ

輸出ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入手續ヲナシタル稅關ニ申告スヘシ

第四十一條 削除

第四十二條 關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ仍該貨物ノ記號、番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條 削除

第四十四條 郵便局ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第四十五條 郵便物ヲ名宛人ニ交付スル能ハサルトキハ郵便局ハ關稅法第四十二條ニ依リ發シタル通知書ニ其ノ理由ヲ記入シ稅關

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニ還付スヘシ

第四節　貨物ノ運送

第四十六條　海路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ船舶ノ名稱、貨物ノ運送先、內外國貨物ノ區別、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

陸路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ貨物ノ運送先、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ二　關稅法第三十九條ノ五ニ揭ケタル外國貨物運送ノ認許ヲ受ケントスル者ハ運送先、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

第四十六條ノ三　關稅法第三十九條ノ五ニ依リ外國貨物ノ運送ヲ認許シタルトキハ其ノ認許證ニ前條ノ申請書ニ記載シタル事項ノ外指定通路ヲ記載スヘシ

稅關官吏前項ノ認許ヲ爲シタルトキハ認許證ノ寫ヲ其ノ地所轄ノ稅關ニ送付スヘシ

第四十七條　運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ運送免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運送貨物免狀ト符合スルトキハ稅關ハ免狀ニ運送濟ノ旨ヲ記入シテ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第五節　貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條　關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記載スヘシ

第四十九條　關稅法第五十條第二項ニ依リ貨物ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項及關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外公賣ノ事由公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第四十九條ノ二　關稅法第五十條第二項ニ依リ貨主ニ交付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第五十條　收容貨物ノ敷料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四章　異議

第五十一條　關稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ表示スヘシ

第五十二條　異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ

第五十三條　判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ

第五十五條　異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第五十六條　關稅法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十七條　異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ評價人ヲ選定シ其ノ嚴藥、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第五十八條　稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第五十九條　稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十條　評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ評記シタル評價書ヲ作リ之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第六十一條　評價終リタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五章　差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十二條　犯則事件ノ調査及處分

第六十三條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量又ハ其ノ他ノ事項ヲ記載シ仍差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居

2916

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

所、氏名ヲ記載スヘシ

第六十四條　差押物件ヲ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領書ヲ徵シ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六十五條　關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告時ニハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十六條　臨檢、搜索及訊問調書ニハ臨檢搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第六十七條　稅關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ

第六十八條　關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ揭ケタル事項ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實物品ノ數量納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第六十九條　第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十條　沒收ニ該當スル物品ニシテ市町村役場ノ保管ニ依ルモノハ保管ノ權納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十一條　稅關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所持者又ハ市町村役場ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第七十二條　犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第六章　稅關ノ執務時間及臨時開廳

第七十三條　稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前九時ヨリ午後四時迄トス但シ土曜日ハ午後三時迄トス

第七十四條　稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハントスル時ハ開廳ノ期間及其ノ期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納ムヘシ

第七章　雜則

第七十五條　關稅法第九十八條ノ特許ヲ得ントスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由、貨物ノ陸揚又ハ船積ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タルトキハ船長ヨリ特許手數料ヲ稅關ニ納付スヘシ

第七十六條　稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手數料ヲ納ムヘシ

第七十七條　大藏大臣ハ棧橋、起重機其ノ他稅關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ使用料ヲ納付セシムルコトヲ得

第七十八條　手數料及使用料ノ額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七十九條　手數料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼用シテ之ヲ提出スヘシ

第八十條　稅關官吏及收稅官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ實知スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第八十一條　關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第八十二條　申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者之ニ署名スヘシ

第八十三條　關稅法又ハ本規則ニ依リ稅關又ハ稅關ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄內ニ在リテハ稅關支署ニ提出スヘシ

前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關支署ニ之ヲ準用ス

附　則

第八十四條　本規則ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス但シ第一條及第二條ノ規定ハ關稅法施行ノ日ヨリ六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

2917

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第八十五條　明治三十年第三百八十五號勅令ハ本規則全部施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十四年勅令第一八四號）

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第三十四條、第三十五條、第三十九條及第十四條中改正ニ關スル規定ハ明治四十四年七月十七日ヨリ、第三十七條ノ二ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法第三十二條第一項ニ依リ稅關ニ提出シタル仕入書ハ明治四十四年九月三十日迄ニ其ノ貨物輸入申告者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ還付ス

附　則（大正九年勅令第五八七號）

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前提供シタル國債以外ノ有價證券ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ本令ノ規定ニ拘ラス仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ有價證券ノ價格減少シタルトキハ稅關ハ更ニ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

附　則（第二條ノ二）（昭和三年勅令第五六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時農村負債處理法

（昭和一三、四、一　法律第六十九號）

改正　加除昭一六法律三五

第一條　本法ハ支那事變又ハ支那事變ニ際シテノ滿洲ニ於ケル軍事行動ニ關シ戰闘其ノ他ノ公務ニ從事シ爲ニ死亡シタル者ノ遺族又ハ之ガ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者若ハ其ノ家族ニシテ農山漁村ニ居住スルモノ（以下戰死傷者遺家族ト稱ス）ノ經濟更生ヲ圖ル爲其ノ負債ヲ處理スルコトヲ目的トス

戰死傷者遺家族ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　本法ニ於テ負債トハ戰死傷者遺家族ノ負擔スル私法上ノ金錢債務ヲ謂フ

前項ノ債務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　戰死傷者遺家族本法ニ依リ負債ヲ處理セントスルトキハ本人又ハ市町村長其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ道府縣臨時負債處理委員會（以下委員會ト稱ス）ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ申出ヅルコトヲ得

委員會前項ノ申出ヲ受理シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ戰死傷者遺家族及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、利率、償還期限、償還方法其ノ他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ニ付斡旋ヲ爲シ其ノ者ノ負債處理計畫ヲ樹立スベシ

委員會ノ組織、權限其ノ他必要ナル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　戰死傷者遺家族前條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了前同條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ノ全部又ハ一部ニ付辨濟、相殺又ハ更改ヲ爲サントスルトキハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ委員會ノ承認ヲ取クベシ但シ債務者ハ之ガ爲ニ遲延ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ズ

戰死傷者遺家族前項ノ承認ヲ受ケズシテ其ノ負債ノ全部又ハ一部ニ付辨濟、相殺又ハ更改ヲ爲シタルトキハ委員會ハ其ノ者ノ負債處理ノ申出ニ付取消アリタルモノト看做スコトヲ得

第五條　委員會必要アリト認ムルトキハ第三條第一項ノ申出ヲ受理シタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停ノ開始ヲ求ムルコトヲ得

第六條　第三條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停事件繫屬スルトキハ裁判所又ハ調停委員會ハ同條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

第七條　負債整理組合又ハ市町村負債整理委員會ハ第三條第一項ノ申出ノ受理アリタル負債ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同條第二項ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄負債ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋ヲ休止スベシ

第八條　委員會必要アリト認ムルトキハ期日及場所ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ得

委員會ハ斡旋ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル

2918

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第九條　當事者及利害關係人ハ、自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ委員會ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得委員會ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條　市町村負債整理委員會其ノ他命令ヲ以テ定ムルモノハ委員會ノ請求アリタルトキハ本法ニ依ル負債ノ處理ニ關シ意見ヲ具申シ又ハ調査ヲ爲スベシ

第十一條　市町村又ハ產業組合中央金庫ハ本法ニ依ル負債處理ヲ助成スル爲必要アリト認ムルトキハ戰死傷者遺家族又ハ負債整理組合ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

產業組合中央金庫ノ爲ス前項ノ特別融通ハ所屬信用組合ガ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ場合又ハ所屬信用組合ガ其ノ組合員タル戰死傷者遺家族又ハ負債整理組合ニ對シ負債處理資金ヲ融通スル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ借用組合ニ對シ之ヲ爲スモノトス

日本勤農銀行、農工銀行又ハ北海道拓殖銀行（以下融資銀行ト稱ス）ハ戰死傷者遺家族ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第十二條　市町村、產業組合中央金庫又ハ融資銀行ガ前條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ勅令ヲ以テ定ムル日迄トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ二十五年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十三條　產業組合中央金庫特別融通及損失補償法第三條及第四條ノ規定ハ產業組合中央金庫ガ第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ、農村負債整理資金特別融通及損失補償法第三條並ニ不動產融資及損失補償法第四條及第五條ノ規定ハ融資銀行ガ第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　北海道府縣ハ第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村ガ損失ヲ受ケタルトキ之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ六以內ノ金額（市町村ニ對スル損失補償金）ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣ガ損失補償ヲ爲シタルトキ之ニ對シ其ノ市町村ニ對スル損失補償金ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ北海道府縣ガ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テハ北海道府縣ノ市町村ニ對スル損失補償金中其ノ六分ノ一ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ於テ負擔スベキ額ヲ定ムベシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スベキ金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲シ又ハ市町村ヲシテ負擔ヲ爲サシメザルコトヲ得

第十五條　政府ハ第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ產業組合中央金庫又ハ融資銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ產業組合中央金庫ニ對シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ六以內、融資銀行ニ對シテハ其ノ特別融通總額ノ十分ノ四以內ノ金額ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第十六條　第十四條第一項及前條ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ諮詢シテ之ヲ定ム

第十七條　第十四條第二項及第十五條ノ規定ニ依ル政府ノ補給金及補償金ト農村負債整理資金特別融通及損失補償法第五條第二項及第六條ノ規定ニ依ル政府ノ補給金及補償金トノ合計額ハ同法第八條ノ規定ニ依ル補給金及補償金ノ總額ノ限度ヲ超エザルモノトス

第十八條　第十一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リ市町村產業組合中央金庫又ハ融資銀行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ農林金融改善特別融通損失審査會之ヲ決定ス

第十九條　第十四條第二項及第十五條ノ契約ニ基キ政府ガ北海道府縣、產業組合中央金庫及融資銀行ニ對シ支拂フベキ補給金又ハ補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第二十條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

トヲ得

第二十一條　本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第二十二條　農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ負債整理組合ト看做ス

第二十三條　本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●戰時災害保護法

（昭和十七年二月二十四日法律第七十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル戰時災害保護法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

戰時災害保護法

第一章　總則

第一條　戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル者並ニ其ノ家族及遺族ニシテ帝國臣民タルモノハ本法ニ依リ之ヲ保護ス

第二條　本法ニ於テ戰時災害ト稱スルハ戰爭ノ際ニ於ケル戰鬪行爲ニ因ル災害及之ニ起因シテ生ズル災害ヲ謂フ

第三條　保護ハ救助、扶助及給與金ノ支給ノ三種トス

第四條　保護ハ保護ヲ受クベキ者ノ住所地（救助ニ付テハ現在地）ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第二章　救助

第五條　救助ハ戰時災害ニ罹リ現ニ應急救助ヲ必要トスル者ニ對シ之ヲ爲ス

第六條　救助ノ種類左ノ如シ

一　收容處設ノ供與

二　被服、寢具其ノ他生活必需品ノ給與

三　貸與

四　醫療及助產

五　學用品ノ給與

六　埋葬

七　前各號ニ揭グルモノノ外地方長官ニ於テ必要ト認ムルモノ

救助ハ地方長官ニ於テ必要アリト認メタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ要救助者（埋葬ニ付テハ埋葬ヲ行フ者）ニ對シ金錢ヲ給シテ之ヲ爲スコトヲ得

救助ノ程度、方法及期間ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　地方長官ハ勅令ヲ以テ定ムル者ヲシテ救助ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第八條　地方長官ハ要救助者ヲシテ救助ノ實施ニ協力セシムルコトヲ得

第九條　救助ヲ行フ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ地方長官ハ一時勅令ヲ以テ定ムル施設ヲ管理シ、土地、家屋若ハ物資ヲ使用シ勅令ヲ以テ定ムル者ヲシテ物資ヲ保管セシメ又ハ物資ヲ收用スルコトヲ得

第十條　前條ノ規定ニ依リ管理、使用若ハ收用シ又ハ保管セシムル準備ノ爲必要アルトキハ地方長官ハ當該官吏ヲシテ施設、土地家屋、物資ノ所在スル場所又ハ物資ヲ保管セシムル場所ニ立入リ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

地方長官ハ前條ノ規定ニ依リ物資ヲ保管セシメタル者ヨリ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ當該物資ノ所在スル場所ニ立入リ檢査セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ施設、土地、家屋又ハ場所ノ管理者ニ通知スベシ

當該官吏第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ立入ル場合ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

第十四條　第一項ノ規定ニ依リ市町村長又ハ之ニ準ズルモノ第一項及第二項ニ規定スル職權ノ委任ヲ受ケタルトキハ第一項、第二項及前項中當該官吏トアルハ當該吏員トス

第十一條　第七條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償ス

第十二條　第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ從事又ハ協力スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助金ヲ給ス

第十三條　第九條ノ規定ニ依リ施設ヲ管理

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

シ、土地、家屋若ハ物資ヲ使用シ、物資ヲ保管セシメ又ハ物資ヲ收用スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ノ額ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ定ムル救助ニ關スル職權ノ一部ヲ市町村長又ハ之ニ準ズルモノニ委任スルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定竝ニ之ニ基キテ發スル命令ハ前項ノ規定ニ依リ地方長官ガ市町村長又ハ之ニ準ズルモノニ委任シタル第七條乃至第十條ノ規定ニ依ル職權ニ基キテ爲ス處分ニ依リテ負ヲ義務ノ履行ヲ市町村長又ハ之ニ準ズルモノガ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 地方長官ハ救助ノ爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣市町村又ハ之ニ準ズルモノヲシテ救助ニ要スル費用ヲ一時繰替支辨セシムルコトヲ得

第三章 扶助

第十六條 扶助ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ當該ノ傷痍、疾病、身體障害又ハ死亡ノ爲生活スルコト困難ト爲リタルモノニ對シ之ヲ爲ス但シ傷痍、疾病又ハ死亡ガ其ノ者又ハ扶助ヲ受クベキ者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因レルモノナルトキハ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一 戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者

二 戰時災害ニ因ル傷痍又ハ疾病ノ治療シタル場合ニ於テ仍身體ニ著シキ障害ヲ存スル者

三 前二號ニ掲グル者ノ配偶者（屆出ヲ爲サザルモ事實上婚姻ト同樣ノ關係ニ在ル者ヲ含ム以下同ジ）若ハ直系卑屬ニシテ前二號ニ掲グル者ト同一ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ又ハ前二號ニ掲グル者ノ直系尊屬ニシテ前二號ニ掲グル者ガ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ引續キ同一ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ

四 戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ配偶者若ハ直系卑屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之ト同一ノ家若ハ世帶ニ在リ且引續キ其ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ又ハ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ直系尊屬ニシテ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ戰時災害ニ罹リタル時之ト同一ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者本法ニ依リ救助ヲ受クルトキハ救助ヲ受クルノ間其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十七條 扶助ノ種類左ノ如シ

一 生活扶助
二 療養扶助
三 用度扶助
四 生業扶助

第十八條 扶助ハ戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル時ヨリ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

扶助ノ程度及方法ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行ヒ又ハ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトヲ得

第二十條 扶助ヲ受クル者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同ジ

第二十一條 扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サザルコトヲ得

一 正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關シ地方長官ノ爲ス指示ニ從ハザルトキ

二 正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキ

三 素行著シク不良ナルトキ又ハ著シク怠惰ナルトキ

第四章 給與金ノ支給

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十二條 戦時災害ニ因リ死亡シタル者アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ遺族ニ對シ給與金ヲ給ス戦時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲身體ニ著シキ障害ヲ存スル者アルトキ其ノ者ニ對シ亦同ジ

第二十三條 戦時災害ニ因リ住宅（水上生活者ノ居住ノ用ニ供スル舟ヲ含ム）又ハ家財ノ滅失又ハ毀損アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有者ニ對シ給與金ヲ給ス

第二十四條 業務ノ性質上戦時災害ニ因ル危害ヲ顧ミルコト能ハズシテ業務ニ從事スルコトヲ要スル者當該業務ニ從事中戦時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ニ對シ給與金ヲ給ス此ノ場合ニ於テハ第二十二條ノ給與金ハ之ヲ給セズ

前項ノ業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 正當ノ理由ナクシテ給與金ノ支給ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキハ其ノ者ニ對シ給與金ヲ給セザルコトヲ得

第五章 雜則

第二十六條 本法ニ依ル保護ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル公費ノ救助又ハ扶助ニ非ザルモノトス

第二十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第二十八條 本法ニ依ル給與金品ハ既ニ給與ヲ受ケタルト否トニ拘ラズ之ヲ差押フルコトヲ得ズ

第二十九條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第六章 罰則

第三十條 第七條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 詐僞其ノ他ノ不正ノ手段ニ依リ保護ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル當該官吏若ハ當該吏員ノ立入檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp